

淡路地震によるヘリテージ被災状況緊急調査

淡路地震の概要

- 1 発生日時: 4月13日5時33分
- 2 地震規模 震度6弱



2013年10月19日 第1回全国ヘリテージマネージャー大会
ひょうごヘリテージ機構H²O淡路地区 角田 学

初動

- 4月13日(土)5:33
震度6弱の地震発生
- 4月14日(日)12:30
代表世話人より淡路地区・奥井にTEL
・調査日の決定
・調査実施計画書、調査表の作成
- 4月15日(月)23:35
各地区に緊急調査実施のメール配信(志願者募集)
- 4月20日(土)10:00~16:00?
緊急調査実施(21名)
淡路地区:5名、神戸地区:1名、阪神地区:2名、東・北播磨地区:4名、
中・西播磨地区:3名 → HM計16名
県:1名、淡路市:1名、洲本市:2名、南あわじ市:1名 → 行政計5名
神戸新聞:1名

「私が見つけた登録文化財」 淡路地区57件

調査計画書と調査表

2013.04.15

地震によるヘリテージ被災状況緊急調査実施計画書

ひょうごヘリテージ機構H²O淡路地区 奥井 正徳

4月13日の地震を契機とする地震により、淡路島で被害が発生しています。本報、速報作業に入っていくと思われていますが、私たちヘリテージマネージャーとして対応できるか、行動を起こすべきであると考えています。

つきましては、下記の通り「地震によるヘリテージ(登録文化財)緊急状況調査」を実施いたしますので、見解とも意見をいただければ幸いです。

趣

- 1 調査の目的
 - ・ 震災50年を記念した建築物が、地震によりどのような被害を受けたかを調査し調査結果を明らかにするとともに、必要と認められる対策を講ずるための基礎資料を作成する。
- 2 調査対象
 - ・ 淡路地区内の登録文化財(建築物)と重要建築物等
 - ・ 調査集中地域における一般建築物等(おもに調査の被害状況)
- 3 調査方法(作業内容)
 - ・ 被災地の建築物を現場により実況状況を把握し、現地調査員に記入し、撮影した写真を添付する。
 - ・ 調査結果を基に、被災状況を明らかにしうえで考察を加える。
- 4 調査日程および作業場
 - ・ 4月20日(土)
 - ・ 午前10時00分、洲本市センター集合(集りに到着し調査地域に車を停めて作業)
 - ・ ナビゲーター:奥井、都賀、海田、その他
- 5 その他
 - ・ 調査費用はご自身負担
 - ・ お弁当、筆記用具、調査表(持ち帰り用)⇒コピー20枚程度、備忘録(各自持参)のこと

調査対象	調査員	調査日時	調査内容	調査結果
洲本市 〇〇〇	〇〇	4月20日 10:00~12:00	〇〇	〇〇
洲本市 〇〇〇	〇〇	4月20日 12:00~14:00	〇〇	〇〇
洲本市 〇〇〇	〇〇	4月20日 14:00~16:00	〇〇	〇〇

淡路地震による被災状況緊急調査

地震発生から1週間後の4月20日(土)10:00から兵庫県各地から参加したHMメンバー等で調査が行われた。

日時: 平成25年4月20日(土)午前10時~
場所: 洲本市 炬口、宇山、寺町、下屋敷、塩屋筋
淡路市 南あわじ市 登録物件の確認 特に被害無し
調査人員: 21名
調査件数: 40件





洲本市寺町



淡路市正木邸は内部の壁が剥落



淡路市旧笹野酒造の瓦が

登録文化財等の状況



南あわじ市田中邸は無事



南あわじ市阿万も無事



課題と展望



1703号

2万坪の空き家は今

「空き家問題」が全国的に深刻化している。その中でも、古民家の再生が課題となっている。古民家の再生は、地域の歴史や文化を伝える役割を果たしている。しかし、古民家の再生には、資金力や技術力が必要である。また、古民家の再生には、地域の住民の協力が必要である。古民家の再生は、地域の活性化につながる。古民家の再生は、地域の歴史や文化を伝える役割を果たしている。古民家の再生は、地域の活性化につながる。古民家の再生は、地域の歴史や文化を伝える役割を果たしている。古民家の再生は、地域の活性化につながる。

保存

古民家再生 町並み残す

古民家の再生は、地域の歴史や文化を伝える役割を果たしている。古民家の再生は、地域の活性化につながる。古民家の再生は、地域の歴史や文化を伝える役割を果たしている。古民家の再生は、地域の活性化につながる。